令和７年度

教　科　専　門　試　験

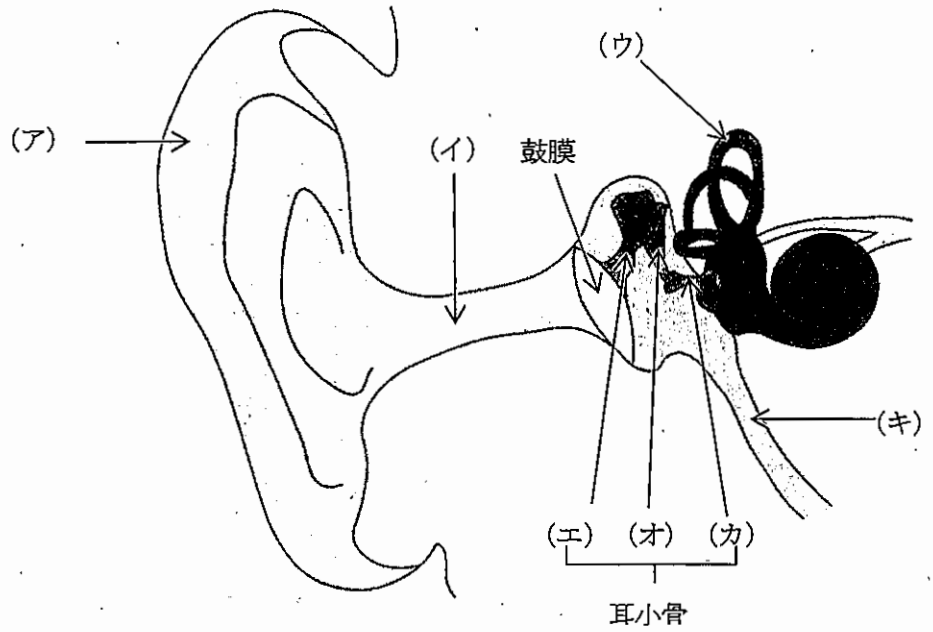
養　護　専　門

解答はすべて解答用紙に記入すること

1 耳について、次の問い(1)～(3)に答えなさい。

(1) 次の(ア)～(キ)にあてはまる語句を書きなさい。

(1点×7＝7点)



(2) 次の空欄(ア)～(カ)にあてはまる語句を書きなさい。ただし、同じ記号には同じ語句が入るものとする。

(2点×6＝12点)

① 耳は聴覚と(　ア　)感覚を感受する器官であり、外耳、中耳、内耳に区分される。

② 鼓膜の振動は、3つの耳小骨で増幅されて、前庭窓をへて前庭階の外リンパに伝わり、前庭膜を介して蝸牛の内リンパを振動させる。その振動によって、コルチ器官の(　イ　)細胞が刺激される。

③ 外耳～中耳に原因のある難聴は(　ウ　)難聴、内耳に障害がある場合は(　エ　)難聴となる。(　ウ　)難聴は多くの場合、治療や手術で改善が見込めるものである。(　エ　)難聴の大部分は治療による改善は見込めず、(　オ　)の装用や聴能訓練が必要となることが多い。

④ (　カ　)難聴は、実際の聴力は正常であるにも関わらず聴力検査では難聴の結果となる。健康診断での聴力検査だけが異常となる場合と、本人が難聴を訴える場合とがある。学校や家庭での何らかのストレスが原因であることが多く、背景の解明やサポートが必要である。

(3) 次の特徴から考えられる疾患名を書きなさい。

(2点×1＝2点)

- 中耳腔に貯留液があり難聴の原因となる。
- 鼓膜に穿孔がない。
- 耳痛や発熱がない。
- 低年齢から持続していると言語発達に遅れが出ることもある。
- 鼓膜換気チューブ留置術を受けている場合は、水泳の際に注意が必要となることがある。

2 小腸・大腸について、次の空欄(ア)～(キ)にあてはまる語句を語群A～Pから選び、記号で書きなさい。ただし、同じ記号の空欄には同じ語句が入るものとする。

(1点×7＝7点)

(1) 小腸は長さ6～7mの管状臓器で、十二指腸、(ア)、(イ)に区分される。十二指腸に続く上部を(ア)、下部を(イ)という。

(2) 大腸は小腸に続く消化管の終末部で、(ウ)、結腸、(エ)に区分される。(エ)に糞便が送り込まれて(エ)壁が伸展すると、その情報が(オ)に伝えられ、便意を催すとともに排便反射が起こる。

(3) 腸液の消化酵素である(カ)はショ糖をブドウ糖と果糖に分解し、(キ)は麦芽糖をブドウ糖に分解する。

【語群】

A 直腸	B 空腸	C S状結腸	D 回腸	E 盲腸
F 上行結腸	G 下行結腸	H 膵臓	I 小脳	J 延髄
K 大脳	L リパーゼ	M マルターゼ	N ラクターゼ	O スクラーゼ
P ペプチターゼ				

3 就学時の健康診断について、次の問い(1)～(3)に答えなさい。

(1) 公益財団法人日本学校保健会発行の「就学時の健康診断マニュアル(平成29年度改訂)」(平成30年3月)で述べられている内容について、空欄(ア)～(エ)にあてはまる語句を書きなさい。ただし、同じ記号の空欄には同じ語句が入るものとする。

(2点×4＝8点)

疾病または異常の疑いがある者については、速やかに治療のために必要な(ア)を受けることを(イ)する。また、(ウ)を受けていない者には(ウ)を受けるように勧め、発育が順調でない者、栄養状態で注意が必要である者等には、その発育、健康状態に応じて保健上必要な(エ)を行う。

(2) 歯及び口腔の疾患のうち、歯周疾患要観察者(GO)の検出は行わない理由を簡潔に書きなさい。

(3点×1＝3点)

(3) 就学時の健康診断結果の活用について簡潔に書きなさい。

(3点×1＝3点)

4 学校における水泳プールの管理について、次の問い（１）、（２）に答えなさい。

（１） 文部科学省発行の「学校環境衛生管理マニュアル(平成 30 年度改訂版)」（平成 31 年３月）で述べられている水質の学校環境衛生基準から、一部抜粋したものである。空欄(ア)～(オ)にあてはまる語句または数字を書きなさい。

（１点×５＝５点）

検査項目	基準
遊離残留塩素	（ ア ）mg／L 以上であること。また、1.0 mg／L 以下であることが望ましい。
ｐH値	5.8 以上（ イ ）以下であること。
（ ウ ）	1mL 中 200 コロニー以下であること。
濁度	（ エ ）度以下であること。
循環ろ過装置の処理水	循環ろ過装置の（ オ ）における濁度は、0.5 度以下であること。また、0.1 度以下であることが望ましい。

（２） 文部科学省･国土交通省発行の「プールの安全標準指針」（平成 19 年３月）で述べられている事故を未然に防ぐ安全管理について、空欄(ア)～(オ)にあてはまる語句を書きなさい。

（２点×５＝10 点）

① （ ア ）の整備
② プール使用期間（ イ ）の点検
③ （ ウ ）の点検及び監視
④ 監視員等の（ エ ）・訓練
⑤ 利用者への（ オ ）

5 公益財団法人日本学校保健会発行の「学校において予防すべき感染症の解説(令和５年度改訂)」(令和６年３月)で述べられている内容について、次の問い(１)、(２)に答えなさい。

（１） 次の各文①～③の内容が正しければ○を、間違っていれば×を書きなさい。

（１点×３＝３点）

① 学校保健安全法には、学校における感染症の予防に関する規定があり、その主となるものは、出席停止と臨時休業である。
② 感染症の診断は、診察に当たった医師が身体症状及びその他の検査結果等を総合して、医学的知見に基づいて行われるものであるが、学校から特定の検査等の実施（例えば、インフルエンザ迅速診断検査やノロウイルス検査）を全てに一律に求めることが学校管理上必要である。
③ 海外からの児童生徒等の受入れの際、結核について、高まん延国で３か月以上の居住歴のある児童生徒等は、入学時または転入時の１回、精密検査の対象とする。

（2） 新型コロナウイルス感染症について、次の場合の登校（園）可能な月日を答えなさい。

（2点×1＝2点）

日	月	火	水	木	金	土
9/1	9/2	9/3	9/4	9/5	9/6	9/7
			発症			
9/8	9/9	9/10	9/11	9/12	9/13	9/14
症状軽快						

注）症状軽快とは解熱薬を使用せずに解熱し、かつ、呼吸器症状が改善傾向にあることを指す。

6 救急処置について、次の（1）～（5）の文中の下線部が正しければ○を、間違っていれば下線部全体を正しく書き直しなさい。

（1点×12＝12 点）

（1） 鼻出血は、①口呼吸をするよう説明する。可能ならば座位で頭部をやや②上をむかせて、母指と示指で左右鼻翼をつまみ、圧迫する。外傷による鼻出血は、頭蓋底骨折、髄液鼻漏を合併していることがある。鼻孔からの出血に髄液がまじっている場合、ガーゼにその血液をしみこませると二重の円ができる③ダブルサークル試験により髄液漏の有無を確認する。

（2） 肘関節周辺の骨折について、肘が伸びて骨折している時は、①肘から指先までの長さの副子を肘の内側に当てて固定し、さらに体に固定する。肘が曲がって骨折している時は、そのままの形で②手の平側に副子を当てて固定する。

（3） エピペン®は、ケースから取り出し、ニードル（針）カバーを①上に向けて、エピペンの真ん中を利き手でしっかりと握り、もう片方の手で安全キャップを外す。太ももの②前内側に、先端を垂直になるように当て、「カチッ」と音がするまで強く押しつけ数秒間待つ。エピペン®は衣服の上から注射③できる。

（4） 出血部にガーゼなどを当てて圧迫し止血することを①直接圧迫止血法という。止血困難な抹消側の出血の場合、出血部位に近い中枢側の②静脈を圧迫することにより、出血部位への血流を阻害させて止血し、出血量を減少させる。

（5） 頭頚部外傷において、四肢の痛みやしびれを訴えたら、①頚髄・頚椎損傷を疑い、119 番通報をする。また、症状は時間とともに変化することがあるため、②くも膜のう胞が疑われたら、少なくとも 24 時間は観察する。

7 熱中症について、次の問い(1)、(2)に答えなさい。

(1) 環境省発行の「熱中症環境保健マニュアル 2022」(令和4年3月改訂)で述べられている「熱中症の症状と重症度分類(出典:日本救急医学会熱中症診療ガイドライン 2015 を改変)」について、次の空欄(ア)～(コ)にあてはまる語句を下の語群A～Oから選び、記号で書きなさい。ただし、同じ記号の空欄には同じ語句が入るものとする。

(1点×10=10 点)

	症状	治療	臨床症状からの分類
Ⅰ度	めまい、立ちくらみ、生あくび (ア) 筋肉痛、(イ) (ウ)を認めない	通常は現場で対応可能 →(エ)での安静 (オ)、経口的に水分と(カ)の補給	(キ) 熱失神
Ⅱ度	(ク)、嘔吐 倦怠感、虚脱感 集中力や判断力の低下	医療機関での診察が必要 →体温管理、安静、十分な水分と (カ)の補給(経口摂取が困難なときには点滴にて)	(ケ)
Ⅲ度	下記の3つのうちいずれかを含む中枢神経症状((ウ)、小脳症状、痙攣発作) 肝・腎機能障害(入院経過観察、入院加療が必要な程度の肝または腎障害) --- 血液凝固異常(急性期 DIC 診断基準(日本救急医学会)にて DIC と診断) ⇒Ⅲ度の中でも重症型	入院加療(場合により集中治療)が必要 →体温管理 ((オ)に加え、体内冷却、血管内冷却などを追加) 呼吸、循環管理、DIC 治療	(コ)

【語群】

A	熱射病	B	頭痛	C	腹痛	D	Ca	E	Na
F	筋肉の硬直	G	筋肉の弛緩	H	頭寒足熱	I	体表冷却	J	熱疲労
K	冷所	L	暗所	M	大量の発汗	N	熱けいれん	O	意識障害

(2) 次の各文①～⑥の内容が正しければ○を、間違っていれば×を書きなさい。

(1点×6＝6点)

① 熱中症発生には、体力・体格の個人差は影響しない。

② 熱中症は梅雨明けなど急に暑くなった時に多く発生する傾向ある。また、夏以外でも急に暑くなると熱中症が発生する。急に暑くなった時は運動を軽くして、徐々に慣らしていく必要がある。

③ 学校の管理下で起きている熱中症の事故は、運動部の活動中に起きているものがほとんどであり、種目は多岐にわたる。練習内容を見るとランニング、ダッシュの繰り返しによるものが多い。

④ 暑さ指数（WBGT）を算出する場合、屋外で日射のある場合と室内で日射のない場合の計算式は同じである。

⑤ 熱中症特別警戒アラートは、都道府県内において、全ての暑さ指数情報提供地点における、翌日の日最高暑さ指数（WBGT）が33（予測値）に達する場合に発表される。

⑥ 熱中症を疑う症状があっても、救急処置により症状が改善した場合は、当日のスポーツは参加してもよい。

8 栄養素について、次の空欄(ア)～(ク)にあてはまる語句または数値を書きなさい。ただし、同じ記号の空欄には同じ語句または数値が入るものとする。

(1点×8＝8点)

① 三大栄養素とは、熱量素となる(　ア　)、(　イ　)、(　ウ　)をいう。

② 三大栄養素のうち、(　ア　)は(　エ　)と繊維に分けられる。(　エ　)の生理的エネルギーは(　オ　)kcal／g として計算される。(　イ　)の生理的エネルギーは平均(　カ　)kcal／g であり、エネルギー源として体内に貯蔵しやすい。

③ (　ウ　)は身体組織の細胞を構成する基本的な成分であり、(　キ　)が重合してできたものである。(　キ　)のうち、人が体内で合成できないものを(　ク　)という。

9 厚生労働省「国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針の全部改正について」(令和5年5月)における「二十一世紀における第三次国民健康づくり運動(健康日本 21 (第三次))」について、次の問い(1)、(2)に答えなさい。

(1) ライフコースアプローチを踏まえた健康づくりを進める上で、「こども」に関する目標を設定した理由を書きなさい。

(3点×1=3点)

(2) 次の表は、国民の健康の増進の目標を示したものである。空欄(ア)～(カ)にあてはまる数値を数値群A～Lから選び、記号で書きなさい。

(1点×6=6点)

国民の健康の増進の目標

目標	指標	目標値
バランスの良い食事を摂っている者の増加	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の者の割合	(ア)% (令和 14 年度)
野菜摂取量の増加	野菜摂取量の平均値	(イ)g (令和 14 年度)
果物摂取量の改善	果物摂取量の平均値	(ウ)g (令和 14 年度)
食塩摂取量の減少	食塩摂取量の平均値	(エ)g (令和 14 年度)
運動やスポーツを習慣的に行っていないこどもの減少	1週間の総運動時間(体育授業を除く。)が(オ)分未満の児童の割合	第2次成育医療等基本方針に合わせて設定
若年女性のやせの減少	BMI(カ)未満の 20 歳～30 歳代女性の割合	15% (令和 14 年度)

【数値群】

A	7	B	8	C	18.0	D	18.5	E	50
F	60	G	80	H	100	I	120	J	200
K	250	L	350						

10 食中毒について、次の問い(1)、(2)に答えなさい。

(1) 次の表は、平成 25 年と令和５年の病因物質別食中毒発生状況を表したものである。次の空欄(ア)、(イ)にあてはまる語句を書きなさい。

（２点×２＝４点）

年次別病因物質別食中毒発生状況（発生率%）

物質別／年次	（ ア ）	ウイルス	（ イ ）	化学物質	自然毒	その他	不明
平成 25 年	38.8	37.7	11.8	1.1	7.6	0.0	3.0
令和 5 年	30.5	16.1	44.7	0.8	5.6	0.5	2.0

（厚生労働省「食中毒統計資料／年次別病因物質別食中毒発生状況」をもとに作成）

(2) 次の表は、食中毒を起こす病原体の特徴を示したものである。(ア)～(エ)にあてはまる語句を書きなさい。

（２点×４＝８点）

病原体	特 徴
（ ア ）	・食後６～48 時間で嘔吐、腹痛、下痢、発熱などを起こす。 ・加熱不足の卵・肉・魚料理などが原因になりやすい。
（ イ ）	・食後１～７日で下痢、発熱、嘔吐、腹痛、筋肉痛などを起こす。 ・生や加熱不足の肉（特に鶏肉や鶏レバー）を食べると症状が出ることがある。 ・発症数週間後にギランバレー症候群を起こすことがある。
（ ウ ）	・食後、数時間～10 数時間で、みぞおちの激しい腹痛、吐き気、嘔吐を起こす。 ・海産魚介類の刺身、冷凍処理をしていない魚介類の加工品が原因になりやすい。
（ エ ）	・食後１～２日で嘔吐、激しい下痢、腹痛などを起こす。 ・病原体を含む二枚貝を生や十分加熱せずに食べた場合や、この食中毒にかかった人の便等を通じて感染する場合がある。

11 学校等の管理下の事故について、次の問い(1)、(2)に答えなさい。

(1) 独立行政法人日本スポーツ振興センター発行の「学校等の管理下の災害(令和5年度版)」で示されている基本統計(負傷・疾病の概況と帳票)について、空欄(ア)～(カ)にあてはまる語句を語群A～Kから選び、記号で書きなさい。ただし、同じ記号の空欄には、同じ語句が入るものとする。

(1点×6＝6点)

① 災害発生の場合別では、小学校は(ア)に最も多く発生し、全体の約半数を占めている。中学校では(イ)に最も多く発生している。高等学校等・高等専門学校でも(イ)に最も多く発生している。

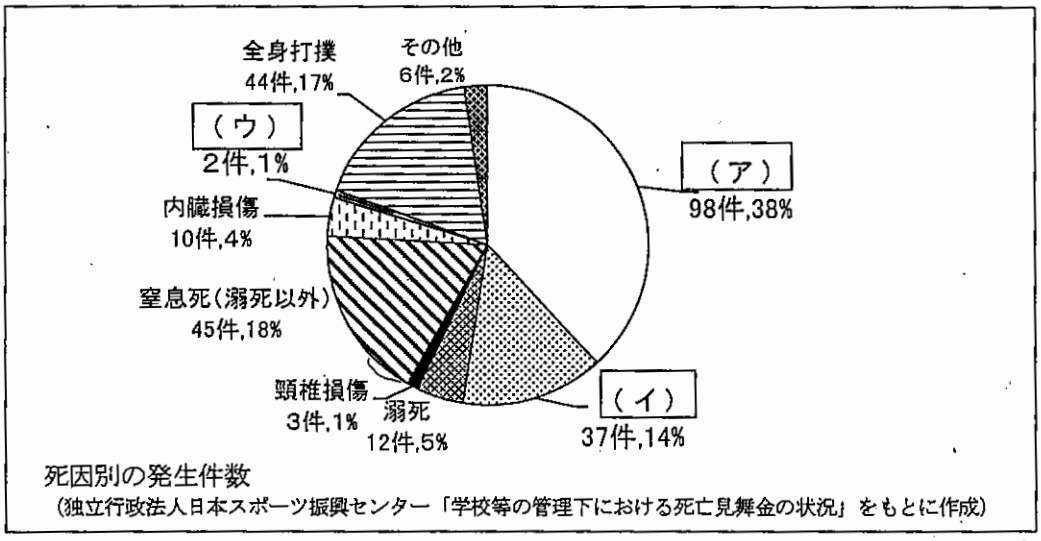
② 場所別では、小学校は(ウ)が最も多く、中学校では(エ)、(ウ)に多く発生している。高等学校等・高等専門学校でも(エ)と(ウ)で、全体の6割を占めている。

③ 体育用具・遊具別では、小学校は(オ)が最も多く、次いで「雲てい」、(カ)が多い。

【語群】

A 運動場・校庭	B 登校中	C ぶらんこ	D 休憩時間
E 鉄棒	F 体育館・屋内運動場	G 各教科等	H 教室
I 登り棒	J 課外指導中	K 道路	

(2) 次のグラフは、独立行政法人日本スポーツ振興センター発行の「学校等の管理下の災害」で平成30年度～令和4年度の学校等の管理下における死亡見舞金の状況のうち、死因別の発生件数を表したものである。次の問い①、②に答えなさい。



死因別の発生件数

(独立行政法人日本スポーツ振興センター「学校等の管理下における死亡見舞金の状況」をもとに作成)

① (ア)～(ウ)にあてはまる正しい組合せを次のA～Cから選び、記号で書きなさい。

(2点×1＝2点)

A	(ア) 突然死	(イ) 頭部外傷	(ウ) 熱中症
B	(ア) 頭部外傷	(イ) 突然死	(ウ) 熱中症
C	(ア) 熱中症	(イ) 突然死	(ウ) 頭部外傷

② 学校管理下での(ア)の発生を防ぐために、学校において危険等発生時対処要領(危機管理マニュアル)に盛り込む留意事項を2つ簡潔に書きなさい。

(3点×2＝6点)

12 糖尿病と学校検尿について、次の問い(1)、(2)に答えなさい。

(1) 1型糖尿病について、空欄(ア)～(カ)にあてはまる語句を書きなさい。ただし、同じ記号には同じ語句が入るものとする。

(1点×6＝6点)

膵臓の(ア)を産生しているβ細胞が自己免疫現象などによって破壊され、(ア)分泌能が著しく低下して起こる。急速に悪化して、突然、(イ)、多飲、(ウ)、体重減少などの症状があらわれる。体型は(エ)が多いのが特徴である。家族内に糖尿病者をもつ者は(オ)。(カ)が治療の中心となる。

(2) 公益財団法人日本学校保健会発行の「学校検尿のすべて」(令和3年3月)で述べられている内容について、次の問いに答えなさい。

(3点×3＝9点)

① 検査の前日の朝からビタミンCを含むサプリメントやビタミン剤の摂取を控える必要がある理由を書きなさい。

② 早朝第一尿を採取する理由を書きなさい。

③ 出始めの尿は捨て、中間尿を採取する理由を書きなさい。

13 文部科学省発行の「生徒指導提要」(令和4年 12 月)で述べられている性的被害に遭った児童生徒への対応について、各文(1)～(5)の内容が正しければ○を、間違っていれば×を書きなさい。

(1点×5＝5点)

(1) 児童生徒が話す内容は、教育情報セキュリティポリシーの観点から記録に残すことは避けるべきである。

(2) 被害開示を受けた場合、児童生徒が安心して話せる場所に移動し、聴き取りの際は、信頼できる教職員が1対1で対応するようにする。

(3) 養護教諭は、性に関する課題のある児童生徒などにも日常的に保健室で関わる機会が多く、性的虐待や性被害なども発見しやすい立場にある。

(4) 被害児童生徒は、眠れない・食べられないなどの身体症状を示したり、様々なトラウマ反応が現れたりすることから、苦しさ・辛さを分かろうとする教職員の姿勢と、今起きていることは自然な反応であることを伝えるなどの対応が、被害児童生徒の心のケアにつながる。

(5) 児童生徒が自発的に被害を話し始めたら、「なぜ」、「どうして」という言葉かけにより、できるだけ詳細な状況を聴き取るようにする。

14 公益財団法人日本学校保健会発行の「保健室経営計画作成の手引(平成 26 年度改訂)」(平成 27 年 3 月)で述べられている内容について、次の問い(1)～(3)に答えなさい。

保健室は、(ア)第1条に「学校には、その学校の目的を実現するために必要な校地、校舎、校具、運動場、図書館または図書室、保健室その他の設備を設けなければならない。」とあり、設置が義務付けられている。設置に当たっては小学校・中学校・高等学校・Ⓐ特別支援学校施設設備指針に具体的な指針が示されている。

保健室経営は、児童生徒の健康の保持増進のために(イ)に関わることであり、(ウ)の連携が必要となることから、(エ)の観点に立ってⒷ保健室経営計画を作成・実施し、児童生徒の心身の健康の保持増進に向けて、ねらいや方策、手立て及び実施状況等を外から見えやすく、わかりやすくしてくことが、ひいては(ウ)、保護者、地域住民及び関係機関等の理解と協力を得られることにつながっていく。

(1) 空欄(ア)～(エ)にあてはまる語句を書きなさい。ただし、同じ記号の空欄には、同じ語句が入るものとする。

(1点×4＝4点)

(2) 下線部Ⓐ文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部「特別支援学校施設設備指針」(令和4年6月改訂) で述べられている内容について、次の空欄(オ)～(コ)にあてはまる語句を書きなさい。

(2点×6＝12 点)

① 幼児児童生徒の休養や様々な健康問題への対応など各種業務に柔軟に対応し、各種機器・器具等を適切に配置・収納し、(オ)を配置する空間又は畳敷きの空間を適切に区画できる面積、形状等とすることが重要である。

また、(カ)を実施するために必要な機器・器具等の設置や洗浄、点滴等が実施できる面積、形状等とすることが重要である。

② 保健室が(キ)の中心となるよう、(キ)に関する掲示・展示のためのスペースや(ク)のためのスペースを保健室内又は隣接して計画することが望ましい。

③ (ケ)などに対応できるよう、シャワー等の設備を設置できるように計画することも有効である。

④ 幼児児童生徒の出欠状況や(コ)、健康診断、保健室来室管理等の保健系機能を実装した統合型校務支援システム等を利用できるよう、情報機器や情報ネットワークを活用できる環境を計画することが重要である。

（3） 下線部Ⓑ「保健室経営計画」について、各文①～⑤の内容が正しければ○を、間違っていれば×を書きなさい。

（1点×5＝5点）

① 保健室経営計画は、学校保健目標を達成するために、「保健教育」「保健管理」「組織活動」の3領域について、毎年度、具体的な計画として作成されるものである。

② 保健室経営計画によって、異動による引き継ぎが、円滑に行われる。

③ 課題解決型の保健室経営計画を立て児童生徒の心身の健康づくりを効果的に進めていくことが必要である。

④ 自己評価及び他者評価では、それぞれ異なる評価の観点を示して実施する。

⑤ 保健室経営計画は単年度計画としていることから計画の実施による児童生徒の変容等を把握できるものもあるが、できないものもある。

15 公益財団法人日本学校保健会発行の「『生きる力』を育む学校での歯・口の健康づくり（令和元年度改訂）」（令和2年2月）で述べられている内容について、次の問い（1）～（3）に答えなさい。

（1） 注意が必要な生活習慣や習癖について、次の空欄（ア）～（オ）にあてはまる語句を書きなさい。ただし、同じ記号の空欄には、同じ語句が入るものとする。

（2点×5＝10 点）

習癖	内　容
舌突出癖	唾液や食べ物を飲み込む時に舌を前方に突出させる。舌で押されることで、前歯が開いて上下に隙間が生じやすい（開咬）。（　ア　）を促すとともに、開咬が顕著な場合は（　イ　）に相談する。
爪咬み	爪を歯で噛んでいる。爪が短くなっていることが多い。精神的な問題が関連することもあるので、（　ウ　）が必要な場合もある。
頬　杖	特定の側、あるいは両側の肘を机に乗せ、手で顎に杖をつく。（　エ　）や顎に悪影響を及ぼすので、姿勢を正すように指導する。
（　オ　）	本人には自覚されていないことが多い。就寝時に行っている場合は，家族からの相談で分かることもある。顎関節の症状や頬や首の筋肉痛を訴えることもある。ストレスや精神的な問題が関連することもあるので、（　ウ　）が必要な場合がある。症状がある場合は（　イ　）に相談する。

（2） 歯垢を効果的に落とす歯みがきの基本動作を3つ書きなさい。

（2点×3＝6点）

(3)　次の表は、「歯みがき指導の重点」と「発育・発達の特徴」の平均的な目安を示したものである。空欄にあてはまる内容を「歯みがき指導の重点」については①～⑤、「発育・発達の特徴」についてはA～Eの中から選び、記号で書きなさい。

(1点×10=10点)

発達段階に即した歯みがき指導の重点

目安となる学年	歯みがき指導の重点	発育・発達の特徴
幼　稚　園	(　　)	(　　)
小学校低学年	(　　)	(　　)
小学校中学年	(　　)	(　　)
小学校高学年	(　　)	(　　)
中学校・高等学校	(　　)	(　　)

「歯みがき指導の重点」

① 第一大臼歯及び上下前歯の外側をきれいにみがくことができる。
② 上下前歯の内側をきれいにみがくことができる。歯ブラシの部位を理解し、効果的に使える。犬歯、小臼歯をきれいにみがくことができる。
③ 食後に自分から歯みがきしようとする。ブクブクうがいができる。
④ むし歯や歯肉炎を理解し、自らの意思で継続してみがくことができる。第二大臼歯をきれいにみがくことができる。フッ化物配合歯磨剤やフロスなどの用具を知る。
⑤ 自分の歯並びを知り、みがき残しなくみがくことができる。フロスなどの用具を工夫して使用できる。フッ化物配合歯磨剤の機能を知り、実践に生かすことができる。生活習慣とむし歯や歯肉炎の関係を理解し、予防のため生活改善ができる。口臭について理解し、予防できる。

「発育・発達の特徴」

A　第一大臼歯が生えそろって上下噛み合わさる。上下の前歯が生えそろう。
B　第二大臼歯が生え始める。
C　乳臼歯が小臼歯に生えかわる。乳犬歯が犬歯に生えかわる。
D　乳歯が全て抜け、永久歯列が完成する。第三大臼歯（智歯＝親知らず）が生え始める。
E　第一大臼歯や前歯が生え始める。

令和７年度　養護専門科目　解答例

受験校種		教科科目	養護専門	受験番号						得点	

1

（１）　（１点×７＝７点）

ア	耳介	イ	外耳道	ウ	半規管
エ	ツチ骨	オ	キヌタ骨	カ	アブミ骨
キ	耳管				

※ウは三半規管でも可

（２）　（２点×６＝12点）

ア	平衡	イ	有毛	ウ	伝音
エ	感音	オ	補聴器	カ	心因性

※カは機能性でも可

（３）　（２点×１＝２点）

滲出性中耳炎

2　（１点×７＝７点）

ア	B	イ	D	ウ	E
エ	A	オ	K	カ	O
キ	M				

令和７年度　養護専門科目　解答例

受験校種		教科科目	養護専門	受験番号						得点	

3

（１）　（２点×４＝８点）

ア	医療	イ	勧告	ウ	予防接種
エ	助言				

（２）　（３点×１＝３点）

(例)　学校管理下での保健指導を行うことが不可能であるため

（３）　（３点×１＝３点）

(例)　学校医や学校歯科医等と連携しながら、学校における保健指導及び健康診断に役立てる

4

（１）　（１点×５＝５点）

ア	0.4	イ	8.6	ウ	一般細菌
エ	2	オ	出口		

（２）　（２点×５＝10点）

ア	管理体制	イ	前後	ウ	日常
エ	教育	オ	情報提供		

令和７年度　養護専門科目　解答例

受験校種		教科科目	養護専門	受験番号						得点	

5

（1）　（１点×３＝３点）

①	○	②	×	③	×

（2）　（２点×１＝２点）

9　月　10　日

6　（１点×12＝12点）

（1）

①	○	②	うつむかせて	③	ダブルリング

（2）

①	わきの下	②	○

（3）

①	下	②	前外側	③	○

（4）

①	○	②	動脈

（5）

①	○	②	脳震盪

受験校種		教科科目	養護専門	受験番号						得点	

7

（1）　（１点×10＝10点）

ア	M	イ	F	ウ	O
エ	K	オ	I	カ	E
キ	N	ク	B	ケ	J
コ	A				

※ア、イは順不同でも可

（2）　（１点×６＝６点）

①	×	②	○	③	○
④	×	⑤	×	⑥	×

8　（１点×８＝８点）

ア	炭水化物	イ	脂質	ウ	たんぱく質
エ	糖質	オ	4	カ	9
キ	アミノ酸	ク	必須アミノ酸		

※クは不可欠アミノ酸でも可

9

（1）　（３点×１＝３点）

(例)　幼少期からの生活習慣や健康状態は成長してからの健康状態にも大きく影響を与えるため

（2）　（１点×６＝６点）

ア	E	イ	L	ウ	J
エ	A	オ	F	カ	D

令和７年度　養護専門科目　解答例

受験校種		教科科目	養護専門	受験番号						得点	

10

（１）　（２点×２＝４点）

ア	細菌	イ	寄生虫

（２）　（２点×４＝８点）

ア	サルモネラ菌	イ	カンピロバクター	ウ	アニサキス
エ	ノロウイルス				

11

（１）　（１点×６＝６点）

ア	D	イ	J	ウ	A
エ	F	オ	E	カ	C

（２）

（２点×１＝２点）

①	A

（３点×２＝６点）

②	健康診断結果の活用
	学校生活管理指導表による指導・配慮

※日常の健康観察、体育的行事における事前・当日のチェックでも可

受験校種		教科科目	養護専門	受験番号						得点	

12

（１）　（１点×６＝６点）

ア	インスリン	イ	口渇	ウ	多尿
エ	やせ型	オ	少ない	カ	インスリン注射

※イ、ウは順不同でも可
※カはインスリン治療、インスリン療法でも可

（２）

（３点×３＝９点）

①	（例）潜血反応を正確に判定できず、偽陰性になる可能性があるため
②	（例）体位性蛋白尿という生理的な蛋白尿の影響を防ぐため
③	（例）排尿部周囲の汚れ等の影響を除くため

令和７年度　養護専門科目　解答例

受験校種		教科科目	養護専門	受験番号						得点	

13　（１点×５＝５点）

（1）	×	（2）	×	（3）	○
（4）	○	（5）	×		

14

（1）　（１点×４＝４点）

ア	学校教育法施行規則	イ	学校全体	ウ	教職員
エ	学校経営				

（2）　（２点×６＝12点）

オ	ベッド	カ	医療的ケア	キ	健康教育
ク	委員会活動	ケ	アレルギー疾患	コ	健康観察

（3）　（１点×５＝５点）

①	×	②	○	③	○
④	×	⑤	○		

受験校種		教科科目	養護専門	受験番号						得点	

15

（１）　（２点×５＝10点）

ア	口唇閉鎖	イ	学校歯科医	ウ	健康相談
エ	歯並び	オ	歯ぎしり		

※オはくいしばりでも可

（２）　（２点×３＝６点）

（例）歯ブラシの毛先を使って、歯垢を落とす
（例）毛先の部分を、歯の面に対して直角方向に当てる
（例）軽い力で小刻みに動かす

（３）　（１点×10＝10点）

目安となる学年	歯みがき指導の重点	発育・発達の特徴
幼　稚　園	③	E
小学校低学年	①	A
小学校中学年	②	C
小学校高学年	④	B
中学校・高等学校	⑤	D